

「若者が主役!地域まるごと活性化事業」

つやま若者が語る公開討論会

つやま若者が語る実行委員会 津山市中央公民館

1. 事業の概要

日頃から、公民館や地域でまちづくりや子どもたちへの支援ボランティアとして活動している社会教育団体やNPO関係者、美作大学生、高校生、行政担当者などが集い、自分たちの実践紹介などを行いながら、これから進めたい地域づくりやまちづくりなどについて若者が語り合う会を3回行った。

10月には、地域の公民館などで子どもたちや高齢者などに支援ボランティアとして関わっている高校生や大学生が参加し、地域でのボランティア活動を通じて感じたことや将来の夢などについて語り合った。

次に、1月初めの会では、親子で参加する体験イベントにボランティアスタッフとして参加した中学生や高校生、大学生などが、子どもとのふれあいを通じて、将来、教師や保育士として子どもに関わりたいなど自分の進路選択のヒントになった様子などについて語り合った。

さらに、1月下旬の会では、成人式実行委員として関わった津山高専の学生やまちづくりのボランティアを進めている美作大学生などが参加した討論会を行い、将来、どのような社会人になりたいかについて語りながら、若者から見たまちの将来像などについても考えた。

そして、これらの様子をケーブルテレビでも放送し、地域住民や同世代の若者などに発信し意識啓発することで、まちづくりなどに参加する若者をさらに増やし、地域の活性化を進めることとした。

2. 具体的な事業内容や活動の様子等

10月25日(火)に開催した若者が語る会では、夏休みに津山市内の公民館が実施した子どもの学習支援や体験活動、高齢者の支援などボランティアとして係った高校生や大学生などが参加し、小学生の支援や地域の方との交流を通じて感じたことなどについて発表していただいた。その中では、将来、教師や保育士として子どもたちに関わりたいという希望を持ったことや、地域が抱えている福祉の課題などについても感じ取っていた学生もいた。

1月14日(土)に実施した若者が語る会は、親子で遊びを通じて考える力や人と関わる力を育てるために開催した参加体験型行事にボランティアスタッフとして参加した中学生や高校生、大学生など約20名で行った。その会のコーディネーターは、普段から子どもや保



護者の支援を進めているNPO関係者が親子の体験行事に引き続いて務めたが、若者を親子の体験行事で小学生のグループリーダーとして活動させ、グループをまとめる難しさや楽しさなど体験したことを基に若者に語らせた。

1月23日(月)に実施した若者が語る会では、成人式実行委員として活動した津山高専の学生や、まちづくりや福祉関係のボランティアを行っている美作大学生が参加し、どんな社会人になりたいかを切り口としながら、地域の課題やまちづくりの方法などについても意見交換した。その中では、人と人を結ぶ難しさや大人になっても地域での中で活躍したいなどの意見が多く出された。

以上、3回に渡って若者が交流し、人づくりやまちづくり、子どもの支援のあり方などについて自由に意見を述べる会を実施したが、ボランティアを行っている大人との意見交換も含め、自分の進路選択の糧として貴重な経験となっていた。



3. 成果や課題、今後のビジョン等

まちづくりを進めるNPOや団体、高校生、大学生、行政関係者などにより公開討論会を開催する中で、高校生や大学生などがボランティア活動の意味や地域課題の解決に向けて自分の意見などを積極的に語ってくれた。また、多くの若者がボランティア活動や討論会に参加したことで、自分たちの進路選択の際に大きなヒントを得たことや、お互いの活動について理解を深める中で、若者が積極的に地域活動に参加することの大切さについても気づきが多かった。そして、それらの様子をメディアを通じて発信することで、多くの人々へ若者の活躍する姿をアピールできた。

課題としては、将来に渡って持続可能な地域づくりを進めるうえで、多くの若者が自らの問題として地域活動などに参加し、係る意識を高めることがさらに必要である。今後も、公民館での取組みや地域でボランティア活動などに参加する若者を増やしながら、地域づくりとそれを推進する人材育成を進めていきたい。

